



舟渡小だより

令和7年9月30日

令和7年度 **10月号**

板橋区立舟渡小学校
校長 相澤 紀夫

志村五中・舟渡小 響き合う学びのエリア

「学力」を向上させるために

副校長 松川 清

今年度の全国学力・学習状況調査の結果を全国平均・東京都平均と比較しました。

国語においては、全国平均を1.2ポイント上回り、算数と理科においては、全国平均とほぼ同じポイントとなりました。昨年度は、国語が3.7ポイント、算数が4.4ポイント下回っていたことから、全国平均に近づけたという結果となりました。

教科	国語	算数	理科
全国平均	66.8	58	57.1
都平均	70	64	60
本校平均	68	58	57
全国との差	1.2	0.0	▲0.1

3教科とも選択式問題の平均正答率は全国平均を上回りました。これは児童質問紙調査で「ICT機器を使って自分のペースで学習できる」、「分からないことをすぐ調べられる」、「楽しみながら学習できる」、「考えを共有しやすい」など、ICT活用に関する全ての項目で、「とてもそう思う」と回答した児童の割合が全国平均・東京都平均を大幅に上回っていることに起因すると考えられます。今後も「すららドリル」や一人一台端末の活用により個別最適な学びの実現をめざしていきます。

また、同じく児童質問紙調査によると本校の児童は、休日の学習時間が短く、家庭の蔵書数が少ない傾向が見られます。

平日の学習時間では、「30分より少ない」「全くしない」と回答した児童の割合が合計17.3%と、1時間未満の層が全国より多い傾向でした。休日の学習時間では、「全くしない」が24.0%と全国より多いことも分かりました。

また、「家に本が10冊以下」と回答した児童が21.3%でした。全国学力・学習状況調査の報告書では、「家にある本の数が多い」児童、また「読書が好き」な児童ほど、各教科の平均正答率が高いことが示されています。児童の読書習慣を定着させるために、本校では夏休みの本の貸し出しなどを含めた学校図書館の積極的な利用において年間を通して促すとともに、毎年10月には読書月間を設定し、全校を挙げて本に触れることにより、読書量は確実に増加しています。併せて読み聞かせやブックラリーをはじめ、さまざまな取組を行うとともに、家庭に対しても「図書だより」などを通して推奨しているところです。ご家庭での学習習慣や読書習慣の増加が、粘り強く課題に取り組む力や、複雑な文章を読み解く力の育成に影響を与えていくと考えます。

「学力」とは各教科における問題が解ける力だけではなく、問題や課題に向き合った時にそれを進んで解決していこうとする力でもあると考えます。この「学力」を向上させるために必要な環境をご家庭と地域と学校で整えていけるよう引き続き、情報の発信と実践をおこなってまいります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。